

戦史研究家 勝目 純也 氏
作成の資料を、本ムジウム用に
編集したものです。

日本海軍潜水艦の歴史



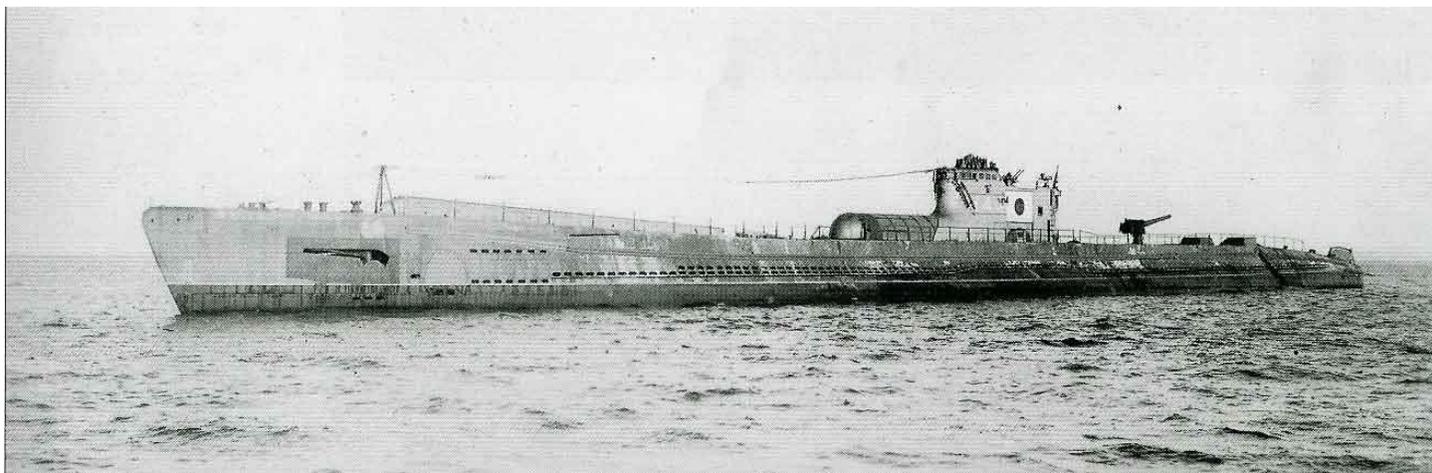
-  日本海軍潜水艦の黎明
-  基本戦略と開発建造の歩み
-  ワシントン軍縮条約下における日本潜水艦の発達
-  ロンドン軍縮条約下における日本潜水艦の発達
-  無条約時代の潜水艦と運用方針の転換
-  戦時建造潜水艦について
-  日本潜水艦のテクノロジーについて
-  日本海軍潜水艦作戦が不振だった理由





日本海軍潜水艦の黎明





日本海軍の潜水艦は・・・

- ①可潜艦 急速潜航が生死を別ける
- ②水上航走重視型 敵を見つける、見つけられたら潜航
- ③潜水艦は軍艦にあらず 副長ではなく先任将校がno2
- ④シャワー、クーラー、シューノーケル ※なし
- ⑤司令塔と発令所に分れる
- ⑥大砲と飛行機を積んでいた
- ⑦潜航深度が150-180m限界



日本海軍の潜水艦は・・・

3隻の潜水隊で行動

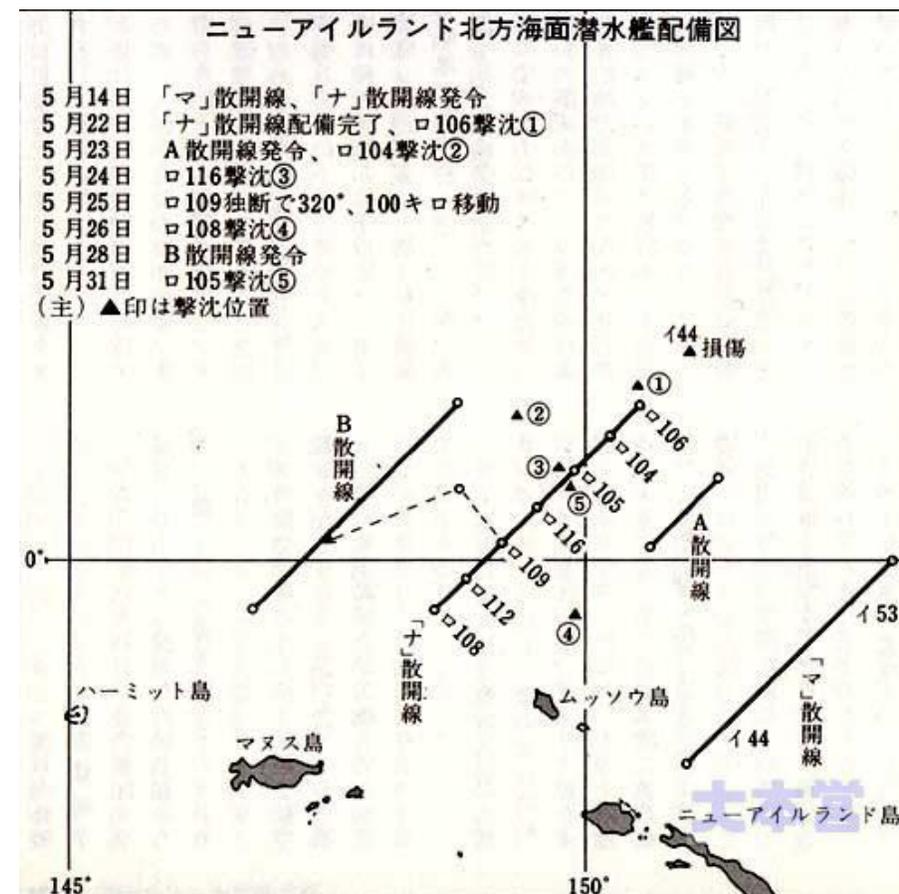
潜水隊司令が1隻に乗り、他の2隻も指揮

作戦によっては3-4個潜水隊で潜水戦隊を編成

散開線・散開面をつくり敵を待ち伏せする

司令潜水艦に潜水戦隊司令官(少将)が乗り

隷下の潜水隊を指揮



昭和19年5月

ギルバート・マーシャルの戦いにおいて「ナ」散開線で
7隻中5隻撃沈



日本海軍の潜水艦の歴史は何年？

40年 明治38年8月～昭和20年8月

日本海軍が保有した潜水艦の隻数は？

241隻 伊号119隻 呂号85隻 波号37隻

伊号	1等潜水艦	1000トン以上
呂号	2等潜水艦	1000トン未満500トン以上
波号	3等潜水艦	500トン以下

実戦に参加した期間は大東亜戦争での3年8ヶ月

実戦参加潜水艦154隻 沈没は？

127隻 約83%の消耗



年表 明治・大正

和暦	西暦	月日	事象
明治38年	1905年	7月31日	ホランド型第1潜水艇 組立完成
		1月13日	第1潜水艇隊編成
		10月23日	横浜沖日露戦争凱旋観艦式で潜水艇、天覧に供する
明治39年	1906年	4月6日	ホランド型改 第6潜水艇竣工(川崎造船所)
明治41年	1908年	10月16日	潜水艇隊 呉に移転
明治42年	1909年	2月26日	英ヴィッカーズ社 C1型 第8潜水艇竣工
明治43年	1910年	4月15日	第6潜水艇(佐久間艇)瀬戸内海新湊沖で事故沈没(14名殉職)
大正元年	1912年	9月30日	川崎型 第13潜水艇竣工
大正5年	1916年	6月10日	仏シュナイダー社 S型 第15潜水艇竣工
大正8年	1919年	4月1日	潜水艇を潜水艦と呼称 1等から3等の等級を定める 第1潜水戦隊編成
		6月18日	独戦利潜水艦 O1~O7 日本に到着
		7月31日	国産 海中1型 第19潜水艇 竣工
大正9年	1920年	3月31日	伊ファイット社 F1型 第18潜水艇竣工
		6月30日	英ヴィッカーズ社 L1型 第25潜水艦 竣工
		9月20日	潜水学校開校式
大正11年	1922年	2月6日	ワシントン軍縮条約締結
大正12年	1923年	8月21日	淡路島仮屋沖で第70潜水艦事故沈没(88名殉職)
		12月1日	末次信正少将(後に大将)第1潜水戦隊司令官に着任 潜水部隊の改革を実行
大正13年	1924年	3月19日	佐世保湾外で第43潜水艦事故沈没(46名殉職)
		6月20日	海大1型 伊51潜 竣工
		7月31日	潜水学校 陸上校舎竣工
		11月1日	等級から伊号呂号波号潜水艦と命名
大正15年	1926年	3月10日	巡潜1型 伊1潜 竣工

年表 昭和開戦前

和暦	西暦	月日	事象
昭和2年	1927年	3月31日	機雷潜型 伊21潜 竣工
		9月	伊21潜で初の小型水上偵察機発着実験
昭和4年	1929年		小型水偵を搭載した伊51潜が演習に参加
昭和5年	1930年	4月22日	ロンドン軍縮条約締結
昭和7年	1932年	1月29日	潜水艦搭載用 91式水上偵察機正式採用
昭和9年	1934年	7月31日	海大6型 伊68潜竣工 初の国産機関を搭載
昭和10年	1935年	5月15日	巡潜2型 伊6潜竣工 巡潜型にも国産機関を搭載
昭和11年	1936年	7月31日	潜水艦搭載用 96式水上偵察機正式採用
昭和14年	1939年	2月2日	伊63潜 伊60潜に衝突され沈没(81名殉職)
昭和15年	1940年	3月20日	丙型 伊16潜竣工
		8月29日	伊167潜 訓練中に急速潜航時の事故により沈没(89名殉職)
		9月30日	乙型 伊15潜竣工
		11月15日	第6艦隊編成
		12月	潜水艦搭載用 零式小型水上偵察機制式採用



潜水艇の導入

日露戦争期間中

明治37年(1904年)5月15日

旅順港外で戦艦「初瀬」「八島」が触雷で沈没

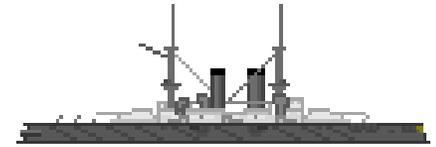
更に前後一週間で

軽巡「吉野」 通報艦「宮古」 砲艦「大島」「赤城」

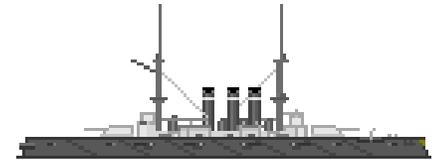
駆逐艦「暁」 水雷艇「四十八号」が相次いで事故沈没

急遽、米国エレクトリックボート社から

ホランド型潜水艇を5艇 購入



八島



初瀬



小栗孝三郎大將



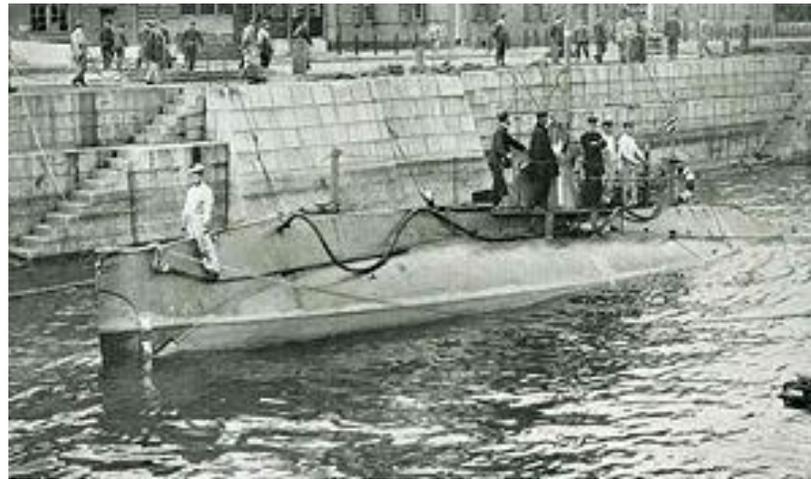
ホランド型を導入

排水量 103トン(水上)124トン(水中) 全長20.42m **日本海軍で一番小さい潜水艦**

速力 8ノット(水上)7ノット(水中)魚雷発射管1門 搭載魚雷2本

完全潜航まで2~4分 潜舵がなく横舵で潜航

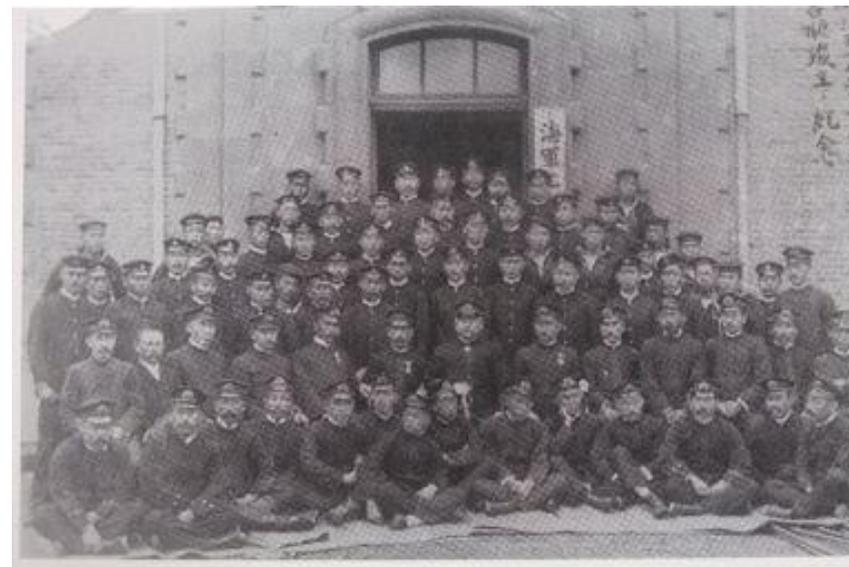
起居飲食、補気受電すべて母艦依存



- ・志願者たること
- ・身体極めて強健品行善良の者
- ・酒、煙草を飲まざる者

下士卒は全て水雷学校、機関学校教程を終えた者

旅順閉塞隊参加者が多数志願



第1潜水艇隊各艇竣工記念



国産初 ホランド型改の建造

ホーランド博士より海軍省副官井出謙治中佐に小型潜水艇の青写真2枚を送り建造を進める。

川崎造船所長 松方幸次郎氏が建造を引き受け 国内建造
明治38年2月 井出中佐が艤装員長として神戸に着任。

排水量 57トン(水上) 63トン(水中)

全長 22.5m

速力 8.5ノット(水上) 4ノット (水中)

魚雷発射管1門 搭載魚雷2本



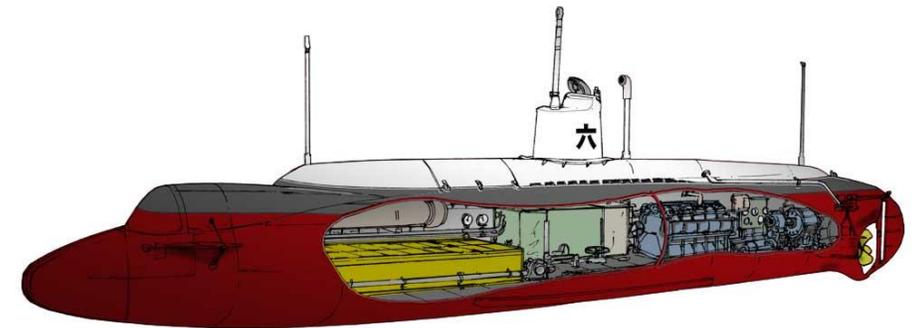
井出謙治大将



松方幸次郎



J.P.ホランド博士

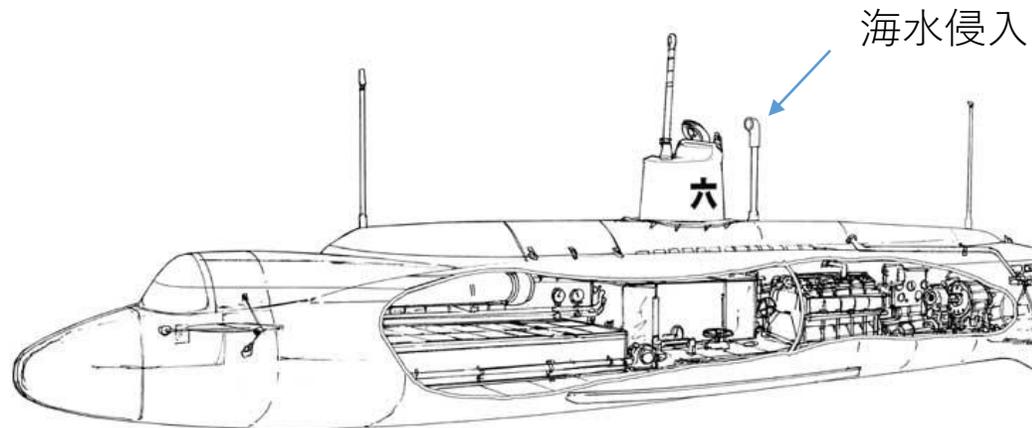


潜水艦乗員の精神的規範となった第六潜水艇遭難

明治43年(1910年)4月15日午前10時45分

第六潜水艇は山口県岩国新秦沖でガソリン半潜航訓練中、開放状態にあった通風筒から大量の海水が浸水し沈没。

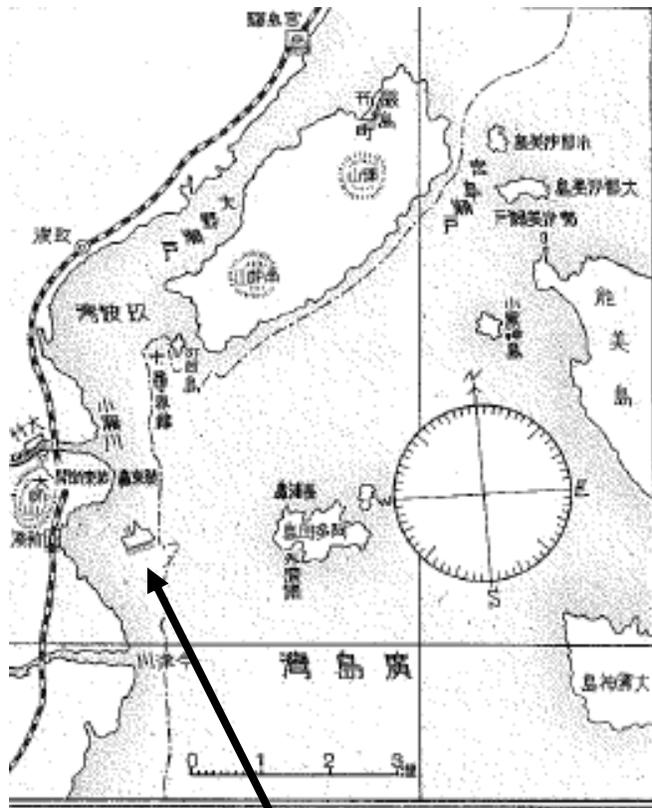
佐久間艇長以下14名が殉職した。



佐久間勉艇長

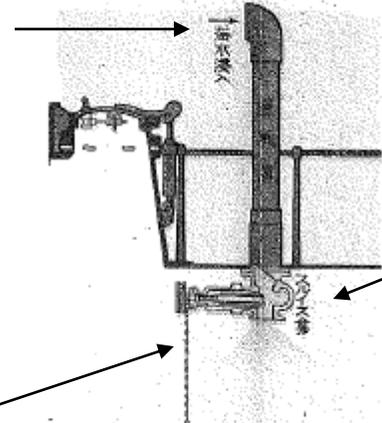


沈没にいたる状況

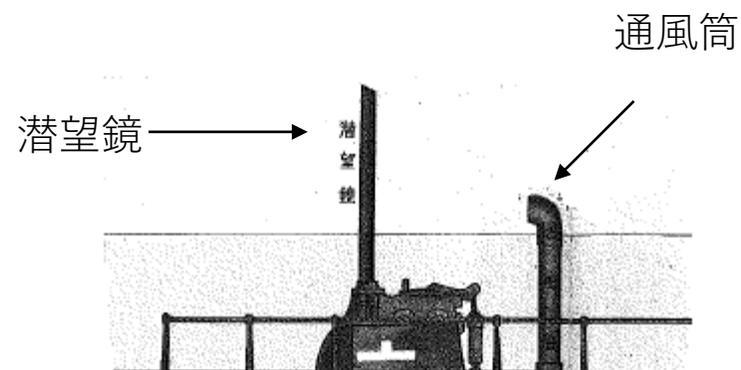


遭難地点

海水侵入



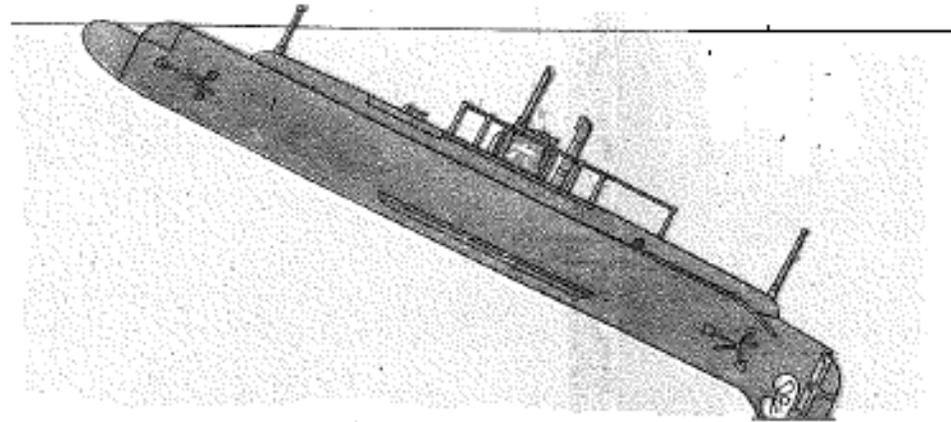
途中で外れたチェーン



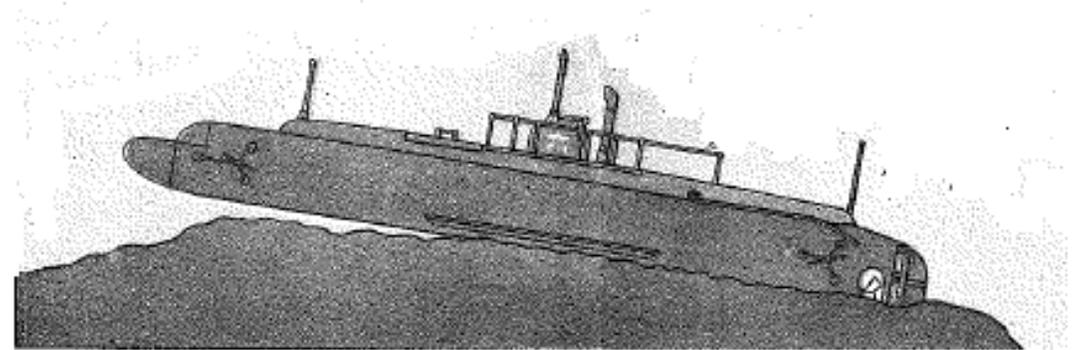
スルイスバルブ



第六潜水艇の沈没の状況



後部に満水、約20度の傾斜にて沈降



傾斜約仰角13度 配電盤に冠水電灯が消え電纜
が燃え悪ガスが発生



現代訳

私の不注意により、天皇陛下の潜水艇を沈め、部下を死なせてしまうことは誠に申し訳ない。

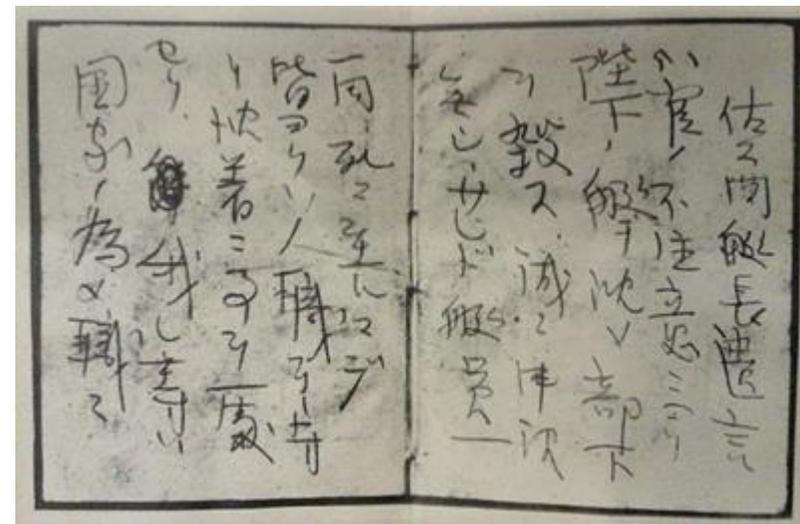
しかし、乗員一同、死に至るまで持場を守り、冷静沈着に事態に対処した。

我々は国家の任務に殉職するとはいえ、ただ心残りであるのは、世の人がこの事故を誤解し、潜水艇の発展研究に悪影響を与えないかということである。

どうか益々研究を進められ、潜水艇の発展研究に全力を尽くしていただきたい。

そうすれば我ら一同、一つも心残りはない。

事故原因の記述等中略



私は日常、家を出れば死を覚悟している。遺言状もすでに潜水母艦「韓崎」にある自分の引き出しにある。

謹んで天皇陛下に申し上げます。どうか私の部下の遺族が生活に困窮する者が出ないように、お願いしたい。私の懸念するところはただこれのみです。

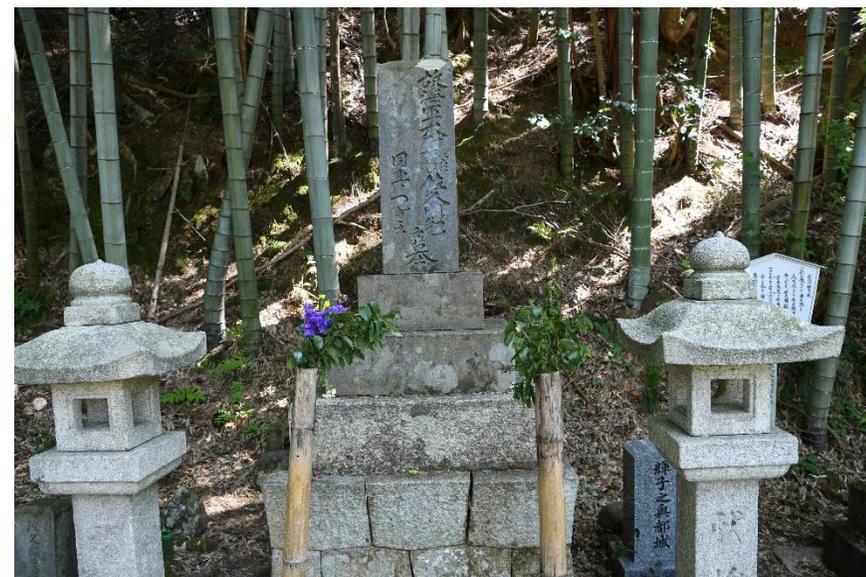
中略(左の諸君によろしくと14名の標記あり)

途中(艇内の気圧高くなり、鼓膜が破れたような感じを受ける)

12時30分 呼吸が非常に苦しい

ガソリンを排出したつもりであったが逆にガソリンで意識が朦朧としてきた。

12時40分である。



佐久間記念交流会館



事故が多かった潜水艦 第六潜水艇以後

何らかの錯誤による事故沈没

- 第70 淡路島沖で潜航公試運転中、沈没
- 伊67 南鳥島で応用訓練中、急速潜航を行いそのまま沈没
- 呂65 キスカ湾内で空襲を避けるため沈座、そのまま浮上せず
- 伊167 演習中、水上機の制圧を受け急速潜航、そのまま沈没
- 伊33 トラックで修理中と伊予灘で試験潜航中、2度事故沈没
- 伊179 周防灘で訓練中突然沈没
- 伊169 トラックで空襲を避けるため沈座、そのまま浮上せず
- 伊183 伊予灘で試験潜航中、沈没

衝突による事故沈没

- 第43 佐世保湾外で軽巡龍田と沈没して沈没
- 伊63 豊後水道で伊60潜に衝突され沈没
- 伊61 壱岐水道で特設砲艦木曾丸に衝突され沈没
- 呂66 ウェーク島攻略作戦中、呂62潜に衝突され沈没



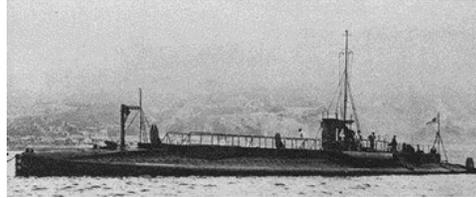


基本戦略と潜水艦建造の歩み



外国からの輸入潜水艦

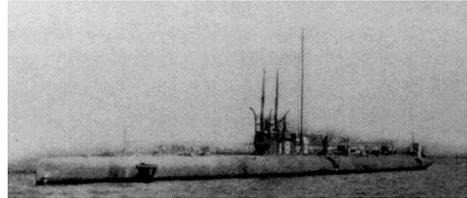
フランスから S 型



シュナイダー社 ロ-ブ-フ-型 S型

(第14潜水艇)、波10潜、波9潜

イタリアから F 型

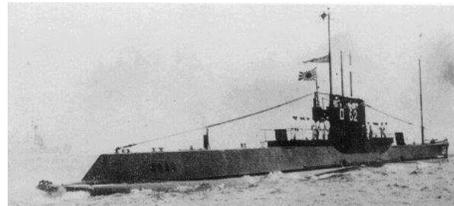


フィアット社 ロ-レンチ型 F1型 F2型

F1型 呂1潜 呂2潜

F2型 呂3潜 呂4潜 呂5潜

英国から L 型



ヴィッカーズ社 L型 L1型 L2型 L3型 L4型

L1型 呂51潜 呂52潜

L2型 呂53潜 呂54潜 呂55潜 呂56潜

L3型 呂57潜 呂58潜 呂59潜

L4型 呂60潜 呂61潜 呂62潜 呂63潜 呂64潜 呂65潜 呂66潜

呂67潜 呂68潜

輸入→模写→改造→拡大



国産潜水艦への挑戦

海中型

海中1型(2隻)	大正8年	720噸	2,600馬力	18.2節
海中2型(3隻)	大正9年	740t		16.5節
海中3型(10隻)	大正11年	772t		16.5節
海中4型(3隻)	大正12年	805t		16.0節
特中型 (4隻)	大正12年	13節	航続力 1.5倍	9,000哩



海大1型 (1隻)

伊51潜

ズルガー式2号ディーゼル4基 4軸艦 1,390噸 5,200馬力 18.5節

海大2型 (1隻)

伊52潜

ズルガー式3号ディーゼル 1,390噸 6,000馬力 20.1節





ワシントン軍縮条約下における日本潜水艦の発達



日本海軍潜水艦基本的作戦構想

日本海海戦再来！

西太平洋で主力艦同士の決戦による艦隊決戦構想

- 米艦隊はハワイから日本本土に來航する
- アリューシャンを経由する北方航路
- オーストラリアから東南アジアを経由する南方航路
- 直接西進する中央航路

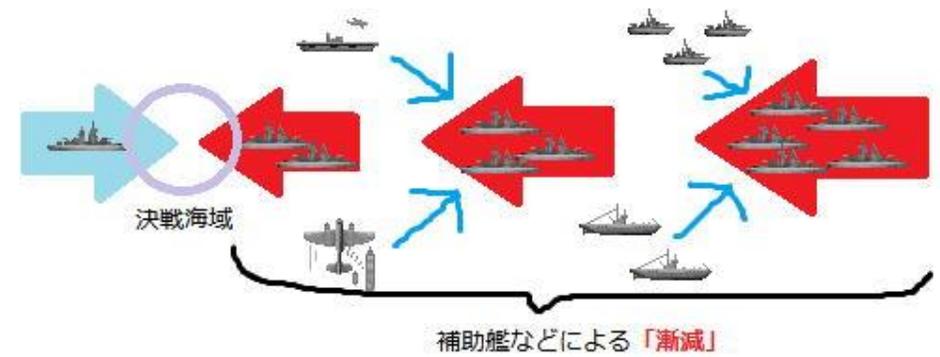
大正11年 ワシントン軍縮条約により

ぜんげん

米太平洋艦隊を迎え撃つ漸減作戦戦略！



潜水部隊
中興の祖
末次信正大将



伊号潜水艦の拡大発達 大正8年～

第1次世界大戦後 ドイツ戦利潜水艦
○一から○七まで

潜水艦設計の世界的権威

ゲルマニア社 テッヘル博士を招聘



Copy



巡潜1型

4隻 (伊1潜～伊4潜)
独潜 U142型

Copy



機雷潜型

4隻 (伊121潜～124潜)
独潜 U125型(○一潜)



海大3型a 3型b (8隻)

3型a 伊53潜 伊54潜 伊55潜 伊58潜

3型b 伊56潜 伊57潜 伊59潜 伊60潜

伊63潜



海大4型 (3隻)



ラウシェンバッハ式2号ディーゼル

伊61潜 伊62潜 伊64潜

海大5型 (3隻)

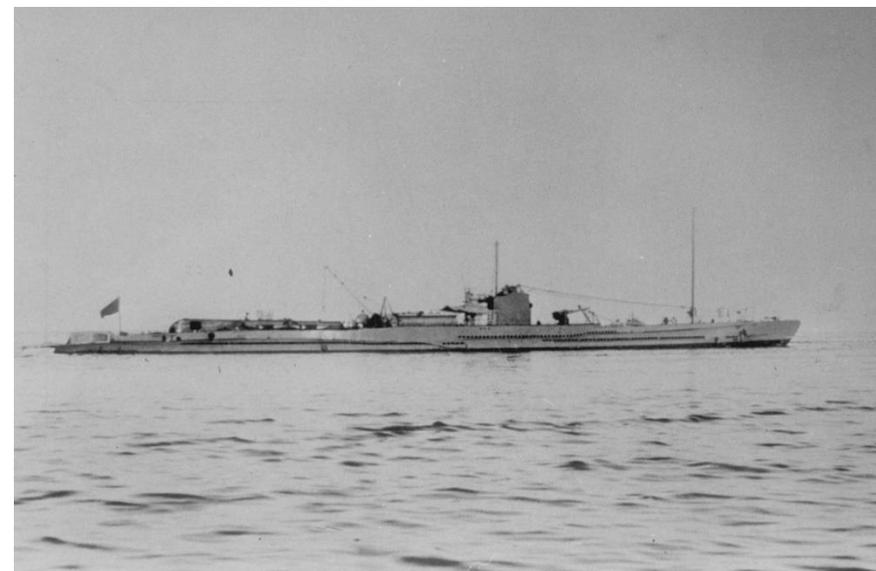
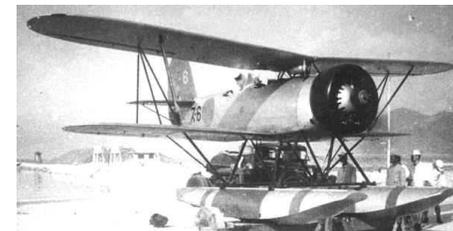


ズルザー式3号ディーゼル

伊65潜 伊66潜 伊67潜

巡潜1型改 (1隻)

伊5潜 航空機搭載



日本海軍潜水艦基本的作戦構想

常時 1 個潜水戦隊以上が敵根拠地に対する近接監視配備を実施する。

他は米艦隊の出撃に即応する位置に待機。

優速を活かし、敵に追躡触接を繰り返す

敵港湾の監視哨戒→巡潜型

ついで

敵艦隊の追躡触接→海大型

しかし・・・

昭和5年 ロンドン軍縮条約で補助艦の制限を受け

漸減作戦戦略の見直しを与儀なくされる!

巡潜型はより速度を、海大型はより航続力を追求

潜水艦の保有制限

52,700トン





ロンドン軍縮条約下における日本潜水艦の発達



昭和5年 ロンドン軍縮条約影響化の潜水艦

脱ゲルマニア 純国産～

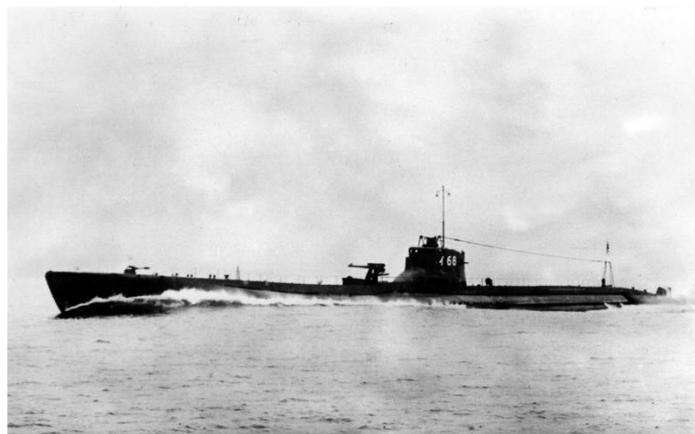
艦本式機関搭載

艦本式1号8型ディーゼル 9,000馬力 23節
昭和9年竣工の海大6型に搭載 29年で潜水艦
技術の自立



海大6型b (2隻)

伊74潜 伊75潜



海大6型a 昭和9年 (6隻)

伊68潜 伊69潜 伊70潜 伊71潜
伊72潜 伊73潜





巡潜2型 (1隻)

伊6潜

艦本式1号甲7型ディーゼル

8,000馬力 21節 20,000哩

巡潜3型 (1隻)

2隻(伊7潜 伊8潜) 昭和12年

艦本式1号甲10型ディーゼル

11,200馬力 23節 14,000哩

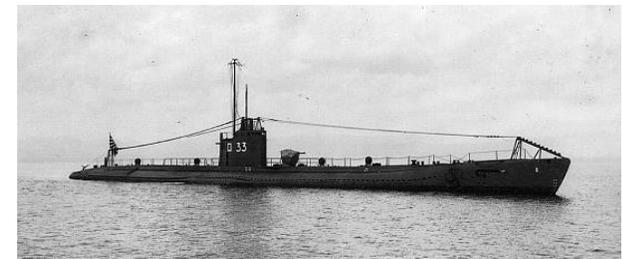
海中5型 (2隻)

呂33潜 呂34潜

艦本式21号8型ディーゼル

12年ぶり呂号潜水艦

3,000馬力 19節 8,000哩





無条約時代の潜水艦と運用方針の転換



昭和12年～ 軍縮条約明けの潜水艦

新巡潜型 **甲型** 旗艦 航空機搭載

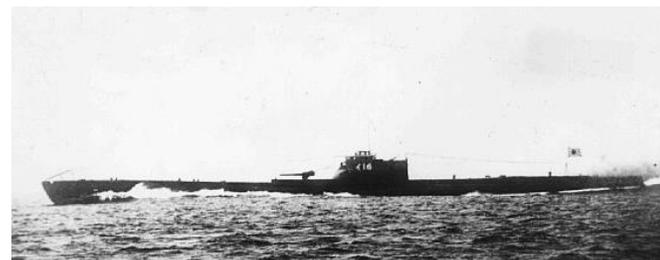
乙型 航空機搭載

丙型 雷装強化



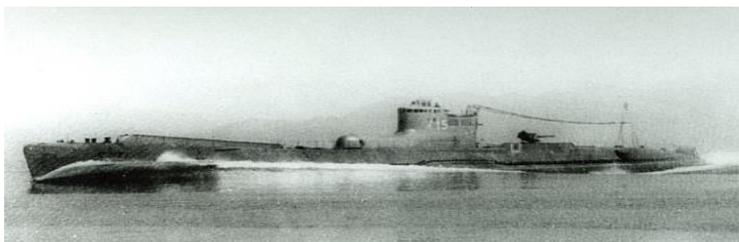
甲型 (3隻)

伊9潜 伊10潜 伊11潜



丙型 (8隻)

伊16潜 伊18潜 伊29潜 伊22潜
伊24潜 伊46潜～伊48潜



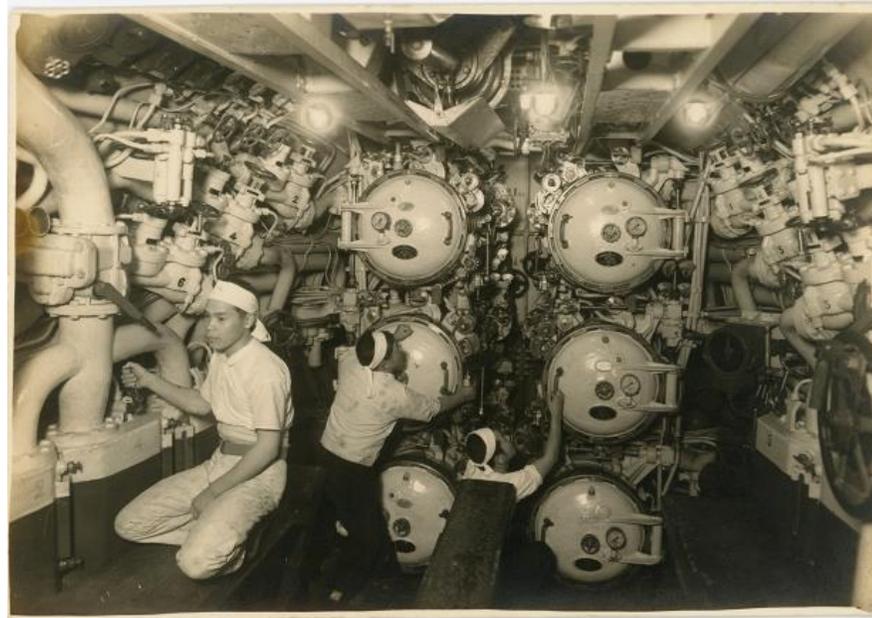
乙型 (20隻)

伊15潜 伊17潜 伊19潜 伊21潜 伊23潜
伊25潜～伊39潜





戦時建造潜水艦について



甲型改1 (1隻)

伊12潜 艦本式22号10型ディーゼル

12,400馬力➡4,700馬力

16,000浬➡22,000浬

写真図面未発見

神戸大学海事博物館図面発見

甲型改2 (2隻)

伊13潜 伊14潜

「晴嵐」2機搭載



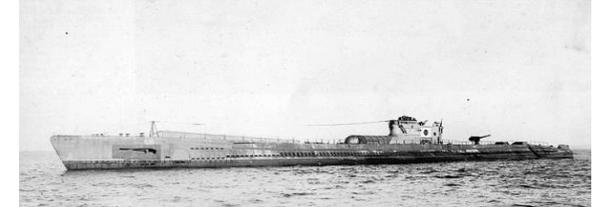
乙型改 (16隻)

伊40潜～伊45潜

艦本式1号甲10型ディーゼル

12,400馬力➡11,000馬力

23.6節➡23.5節



乙型改2 (3隻)

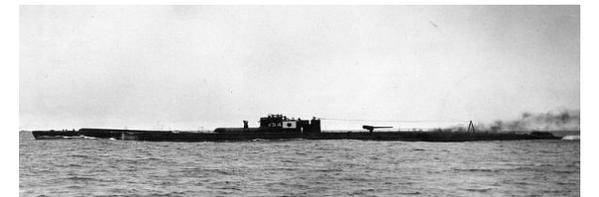
伊54潜 伊56潜 伊58潜

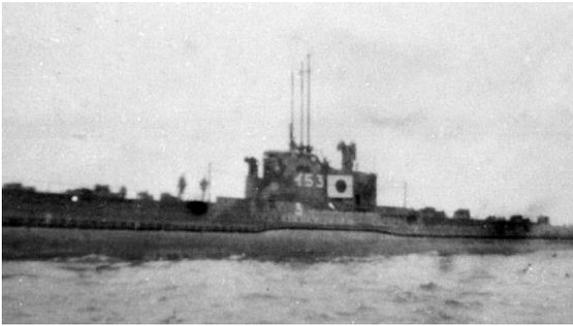
艦本式22号10型ディーゼル

12,400馬力➡4,700馬力

23.6節➡17.7節

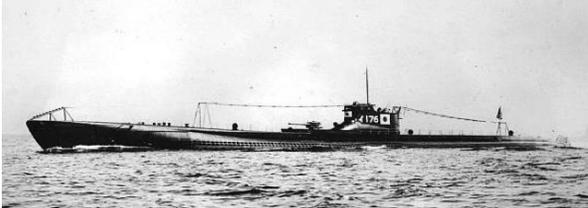
14,000浬➡21,000浬





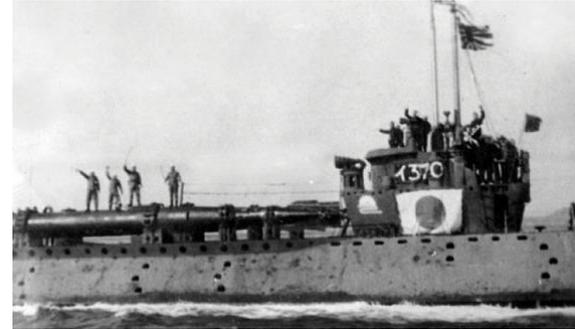
丙型改 (3隻)

伊52潜 伊53潜 伊55潜
艦本式22号10型ディーゼル
12,400馬力→4,700馬力
23.6節→17.7節



海大7型 (9隻)

伊176潜～伊185潜



丁型 (12隻)

伊361潜～伊372潜

丁型改 (1隻)

伊373

写真図面未発見

神戸大学海事博物館図面発見





潜補型 (1隻)

伊351潜



潜高型 (3隻)

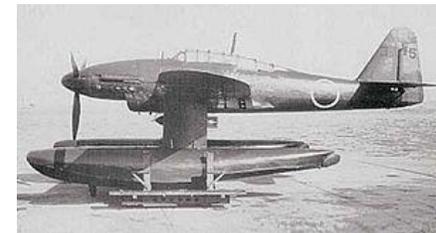
伊201潜～伊203潜

実戦投入されず終戦

潜特型 (3隻)

伊400潜 伊401潜 伊402潜

実戦前に終戦



晴嵐





中型 (18隻)

呂35潜～呂50潜 呂55潜 呂56潜



小型 (18隻)

呂100潜～呂117潜



潜高小 (10隻)

波201潜～波205潜 波207潜～波210潜

潜輸小 (10隻)

波101潜～波109潜 波111潜





日本潜水艦のテクノロジーについて



造船	1年平均建造数	呉工廠 2隻 横須賀工廠1隻 佐世保工廠1隻 神戸三菱造船所 2隻 神戸川崎造船所 2隻
主機械	ズ式 ラ式 ビ式	横廠 呉廠 佐廠 広廠(部分品) 神戸製鋼 呉廠 神戸川崎造船所 三菱内燃機(神戸) 三菱内燃機(神戸)
主電動機		芝浦製作所 三菱電機 富士電機 10か月で各10隻分
主2次電池 電池年齢		横須賀造兵部 日本電気 湯浅蓄電気 1か年で各10隻分 1年100% 2年96% 3年80% 4年62% 4年半50%
蒸留水		巡潜型 概略持続日数 2か月 機雷潜型 1か月半 海大3型 2か月強 海大4型 1か月半 L4型 1か月
清水		巡潜型27日 機雷潜型17日 海大3型31日 海大4型19日 L4型26日



糧食	巡潜型	冷蔵庫生糧品	約10日	糧倉庫艦内搭載量	約3か月
	機雷潜型		約4日		約2か月
	海大3型		約10日		約2か月
	海大4型		約10日		約2か月
	L4型		約2日		約1か月
乗員の耐久	巡潜型	約3か月	海大型	約2か月	
単独行動日数	巡潜型	約2か月から2か月半	海大型及び機雷潜型	約1か月半ないし2か月	
長期対敵行動日数	敵港湾に近接し全直配備の場合	約7日			
	2直以上の複直配備の場合	約20日			
長期追躡触接持続日数	概ね約5日 (昭和5年第2艦隊南洋巡航、昭和8年度大演習第3期及び同特別演習)				
急速潜航/浮上	警戒航行中より潜航全没までの所要時間 1分10秒～30秒				
	「潜航急げ」の号令から「バント開け」までは突入時間 最高6.9秒				
	露頂潜航深度より浮上主機械発動迄の所要時間 2分10秒～50秒				
長時間潜航	平時16時間 戦時40時間				

攻撃力 魚雷	6年式(空気) 89式(空気) 95式(酸素) 9,000m/49節 92式(電池) 7,000m/30節
砲装	12cm(15,400m) 14cm(15,400m) 10cm高角砲(90度) 12.7cm高角砲(75度)
水中聴音兵器	パッシブソナー K式水中聴音機 目標艦の推進器音響による律動数を測定し敵速を得る 93式水中聴音機
探信兵器	アクティブソナー 91式水中短信儀 短信距離 18節1500m 9節4500m 6節5000m 5度おきに360度短信すると約8分を要する 誤差 距離差2.5%から3% 方位差 2.6度 3式水中探信儀
耐圧深度	巡潜1型 機雷潜型 75m 巡潜1型改 80m 海大3型4型 61m 海大5型 75m L4型 61m 海中5型 75m



通信力

無線電話

長波通信

送信	対軍艦	200哩	対潜水艦	150哩	飛行機	80哩
受信	対軍艦	300哩	対潜水艦	150哩	飛行機	300-400哩

短波通信

送信	対軍艦	4500哩
受信	対軍艦	4000哩

潜望鏡	伊号潜水艦	第1望空用	第2夜間用	第3戦闘用
	呂号潜水艦	第1夜間用	第2戦闘用	

自動懸吊装置 機関を作動させず水中で一定の深度を保って静止する装置。

重油漏洩防止装置 タンク頂部より老朽等による重油の漏れ出しを防ぐ装置。

友永英夫技術少佐の発明 海軍のノーベル賞「海軍技術有効賞」



友永技術少佐

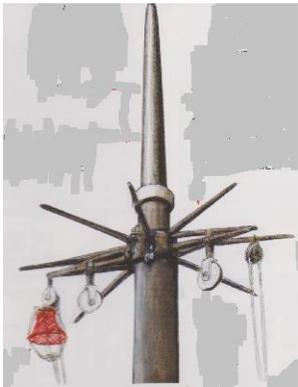




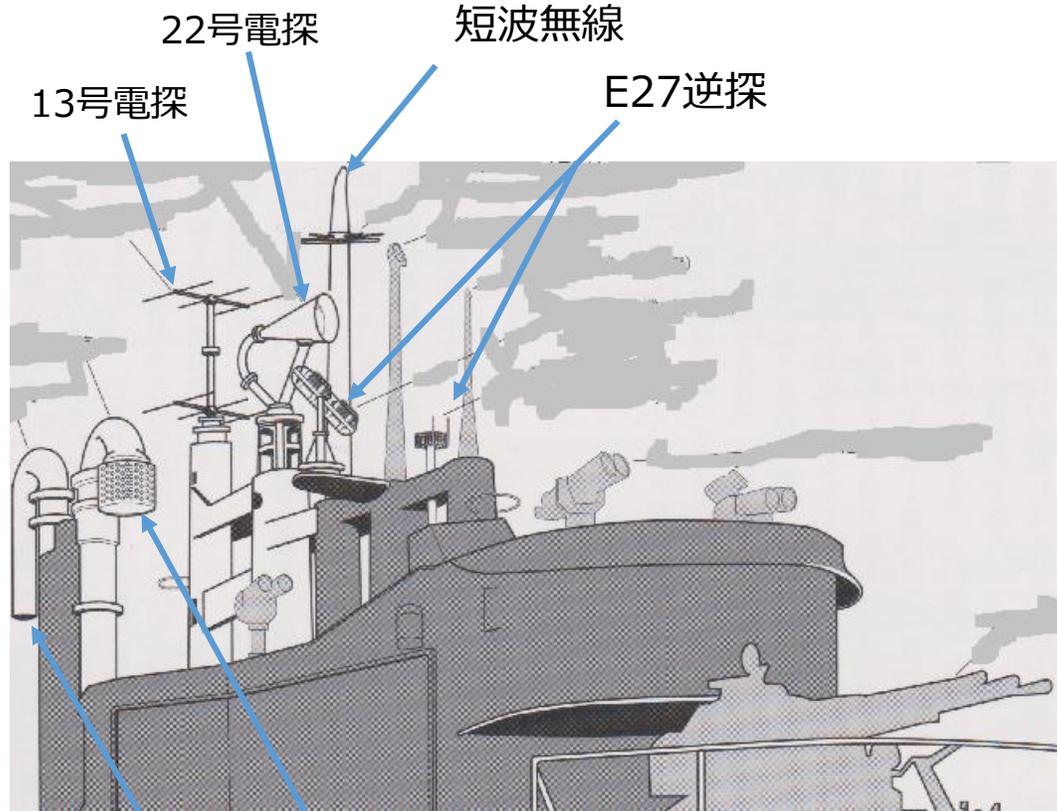
1号3型電探



2号2型電探



短波マスト



22号電探
短波無線
E27逆探
13号電探

水中充電器用吸気筒
水中充電器用排気筒

E27型逆探アンテナ



固定型



旋回型



大東亞戦争における潜水艦作戦



年表 昭和16年-昭和17年

和暦	西暦	月日	事象
昭和16年	1941年	2月13日	甲型 伊9潜竣工
		10月5日	伊161潜 砲艦「木曾丸」と衝突し沈没(69名殉職)
		12月8日	日米開戦 第1第2第3潜水戦隊 ハワイ周辺配備
			特殊潜航艇5艇 真珠湾 第1次特別攻撃隊実施
		12月9日	マレー沖海戦 第4潜水戦隊 英戦艦発見
		12月25日	米西海岸交通破壊戦実施
	12月末	マレー・比島・スマトラ・豪州交通破壊戦実施	
昭和17年	1942年	1月11日	伊6潜 米空母「サラトガ」撃破
		2月22日	伊17潜 米本土砲撃
		3月4日	2式大艇によるハワイ空襲「K作戦」支援
			第8潜水戦隊編成
		5月31日	特殊潜航艇3艇 豪州シドニー湾 第2次特別攻撃隊実施
			特殊潜航艇2艇 マダガスカル島ディゴスワレス湾 第2次特別攻撃隊実施
		6月5日	ミッドウェー作戦・アリューシャン作戦
		6月7日	伊168潜 米空母「ヨークタウン」、駆逐艦撃沈
		6月11日	伊25潜 伊26潜 米本土砲撃
		8月6日	遣独潜水艦 伊30潜 独逸到着
		8月7日	米軍ガタルカナル島上陸 交通破壊戦大幅縮小
		8月31日	伊26潜 米空母「サラトガ」撃破
		9月11日	伊25潜 米本土空襲
		9月15日	伊19潜 米空母「ワズプ」撃沈 戦艦「ノースカロライナ」撃破 駆逐艦撃沈
		10月20日	伊176潜 米重巡「チェスター」撃破
		11月13日	伊26潜 米軽巡「ジュノー」撃沈
	11月7日	ガ島 甲標的作戦開始	
	11月16日	ガタルカナル島 潜水艦輸送開始	
	12月9日	ニューギニア方面ブナ 潜水艦輸送開始	



年表 昭和18年-昭和20年

和暦	西暦	月日	事象
昭和18年	1943年	1月4日	ニューギニア方面ウエ 潜水艦輸送開始 ガ島撤退作戦支援
		2月1日	アリューシャン方面 潜水艦強化 防備・輸送作戦実施
		2月25日	南太平洋・豪州東方海域 交通破壊戦実施
		7月20日	伊11潜 米軽巡「ホバート」撃破
		5月1日	艦政本部第7部を潜水艦部に改編
		8月末	アデン湾・ベンガル湾 交通破壊戦実施
		8月28日	呂61潜 米水上機母艦「カスコ」撃破
		11月19日	米軍 タラワ・マキン上陸
		11月24日	伊175潜 米護衛空母「リスカムベイ」撃沈
		12月21日	伊8潜 遣独任務往復路成功
昭和19年	1944年	3月31日	伊29潜 遣独潜水艦 独逸に到着
		5月11日	ナ散開線で潜水艦5隻を失う
		6月6日	あ号作戦発動 第6艦隊司令部サイパンに進出
		6月15日	米軍 サイパン島に上陸
			中部太平洋潜水艦作戦で20隻を失う
		10月18日	捷一号作戦発動
		10月20日	米軍レイテ湾上陸
			比島 セブ島 甲標的作戦実施
		10月25日	伊56潜 米護衛空母「サンティ」撃破
		11月3日	伊41潜 米軽巡「レノー」撃破
11月20日	回天作戦 実施 菊水隊 突入		
昭和20年	1945年	2月19日	米軍硫黄島上陸 硫黄島回天作戦
		4月1日	米軍沖縄上陸 沖縄回天作戦
			沖縄 甲標的作戦実施
		7月26日	伊400潜 伊401潜 「晴嵐」を搭載して嵐作戦のためウルシーに出撃
		7月30日	伊58潜 米重巡「インディアナポリス」撃沈
8月15日	終戦 嵐作戦中止		



任務別潜水艦作戦の概要

- 1.艦隊決戦支援
- 2.交通破壊戦
- 3.偵察任務
- 4.砲撃任務
- 5.輸送任務
- 6.母潜任務（特潜・回天）
- 7.特別な任務



1.艦隊決戦支援

艦艇実撃戦果

撃沈13隻	正規空母	2	ヨークtown <u>田辺艦長</u> 62/111	ワス° <u>木梨艦長</u> 255/255
	護衛空母	1	リスカムバ`イ <u>田畑艦長</u> 68/113	
	重巡	1	インデ`イナホ`リス <u>橋本艦長</u> 95/123	
	軽巡	1	ジ`ユノ` <u>横田艦長</u> 60/255	
	駆逐艦	5		
	潜水艦	3		
撃破8隻	正規空母	2	サトカ` <u>稲葉艦長</u>	<u>横田艦長</u> 246/255
	戦艦	2	ノ`スカ`ラ`イ` <u>木梨艦長</u>	ヲ`ミ`リス` 特潜
	重巡	1	チ`イ`スター` <u>田辺艦長</u>	
	軽巡	1	ホ`-`ター` <u>松村艦長</u> 182/272	
	駆逐艦	2		

もう1人の二階級特進艦長 福村艦長 41/68



無傷の米正規空母 潜水艦単独撃沈の概要



木梨鷹一艦長 伊号第19潜水艦

昭和17年9月15日

ガタルカナル島南東200浬付近

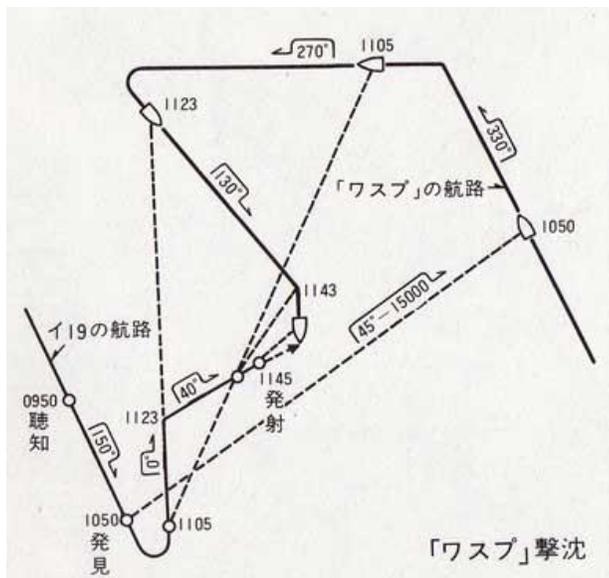
第18任務部隊を発見 魚雷6本を発射

空母「ワस्प」に3本命中 撃沈

戦艦「ネスカロライナ」に1本命中 小破

駆逐艦「オブライエン」に命中 後に沈没

6本中5本が命中 空母撃沈 戦艦撃破
駆逐艦 撃沈



2.交通破壊戦

交通破壊戦 7ヶ月以上参加の潜水艦戦果

太平洋方面

参加 40隻 撃沈 54隻 撃破 24隻

	参加期間	撃沈数
伊27	15か月	17隻
伊10	12か月	16隻
伊37	11か月	7隻
伊165	10か月	8隻
伊166	9か月	7隻
伊162	7か月	5隻



インド洋方面

参加 38隻 撃沈 115隻 撃破 15隻



伊27潜 福村利明艦長



伊21潜 松村寛治艦長



3. 偵察任務

・飛行偵察機 58回

東部及び中部太平洋 9回

南太平洋 33回

北太平洋 6回

インド洋 10回

米本土空襲 2回 (伊25)

・潜航偵察 90回

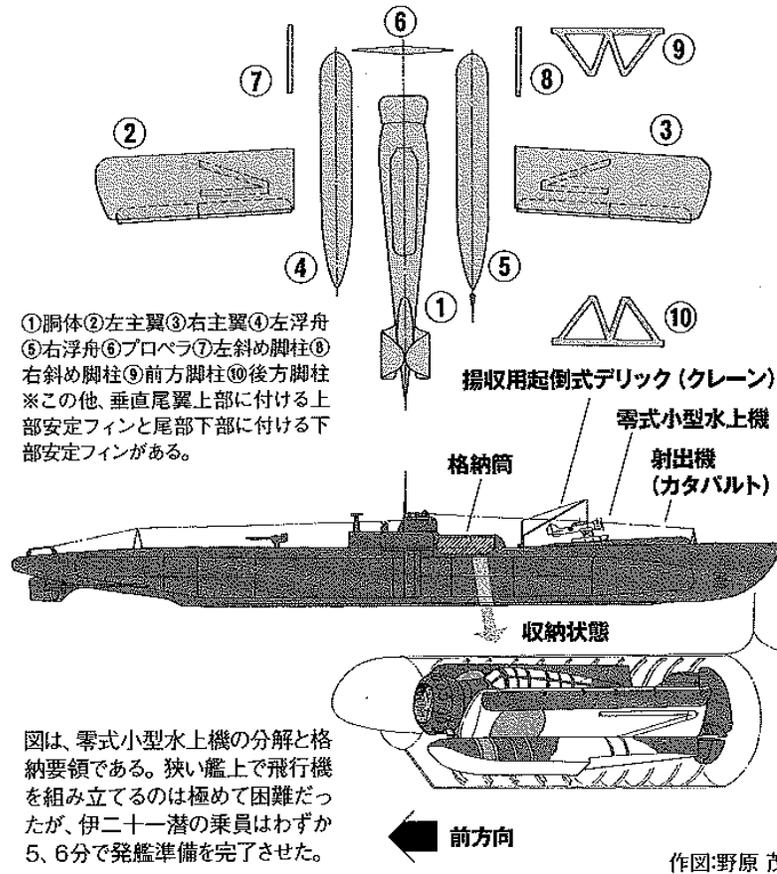
東部及び中部太平洋 17回

南太平洋 41回

北太平洋 17回

印度洋 15回

零式小型水上機の分解要領と搭載要領



4.砲撃任務

陸上砲撃

東太平洋	19回
南太平洋	10回
印度洋	1回



米本土砲撃

- 17年2月24日 伊17 サンバ-ハラ油田地帯 17発砲撃
- 17年6月21日 伊26 カダバ-ンク-バ-島無線羅針局 17発砲撃
- 17年6月22日 伊25 ルゴ-ン州アストリア 17発砲撃(20発の説あり)



5.輸送作戦

南東方面	233回 (10隻喪失)
ガタルカナル島	38回 (2隻喪失)
ニューギニア島	48回 (2隻喪失)
中北部ソロモン諸島及びニューブリテン島	47回 (6隻喪失)
北東方面	46回 (3隻喪失)
中部太平洋方面	45回 (5隻喪失)
南西方面	8回 (1隻喪失)

合計 332回 (99隻投入し19隻喪失)

運貨筒 特型運貨筒 特型運砲筒など輸送専用小型潜水艇を開発使用



安久榮太郎艦長
伊38潜で23回
輸送作戦成功



AUSTRALIAN WAR MEMORIAL

129968



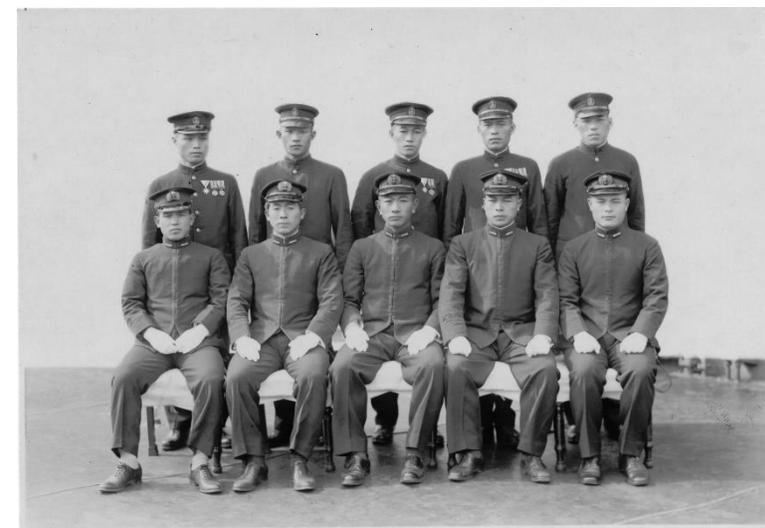
6.母潜任務 甲標的作戦

甲標的

真珠湾	5艇	
シドニー	3艇	宿泊艦クハル撃沈
ディゴスワレス	2艇	英戦艦ラムリーズ撃破
ガタルカナル島	8艇	輸送艦マラバ撃沈 輸送艦アラビヤ撃破

初の生還

セブ島	陸上基地から発進	のべ14艇発進	12艇生還
沖縄	陸上基地から発進	6艇発進	



特四内火艇

実戦投入されず



7.特別任務 遣独潜水艦

遣独潜水艦

- 伊30 復路 シガールで触雷沈没
- 伊8 唯一往復成功(譲渡潜水艦回航員同乗)
- 伊34 往路パン出港後潜水艦により沈没
- 伊29 復路バシー海峡で潜水艦により沈没
- 伊52 往路 大西洋で沈没

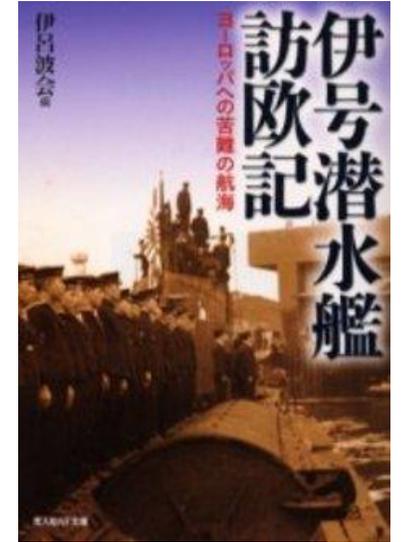
伊29 独潜と会合 チャントホルストと士官2名交換

譲渡潜水艦

呂500 旧U511 さつき1号 独回航員により昭和18年8月7日呉着 昨年発見

呂501 旧U1224 さつき2号 伊8に同乗した回航員で日本に向かう

昭和19年5月14日消息不明



戦果総括

日本潜水艦戦果

艦艇撃沈 13隻 艦艇撃破 8隻

船舶撃沈 171隻(84万9千トン) 船舶撃破 49隻

米潜水艦戦果 艦艇撃沈189隻 船舶撃沈 1,150隻(486万トン)

損害

参加潜水艦154隻 沈没127隻→114隻の全員が戦死

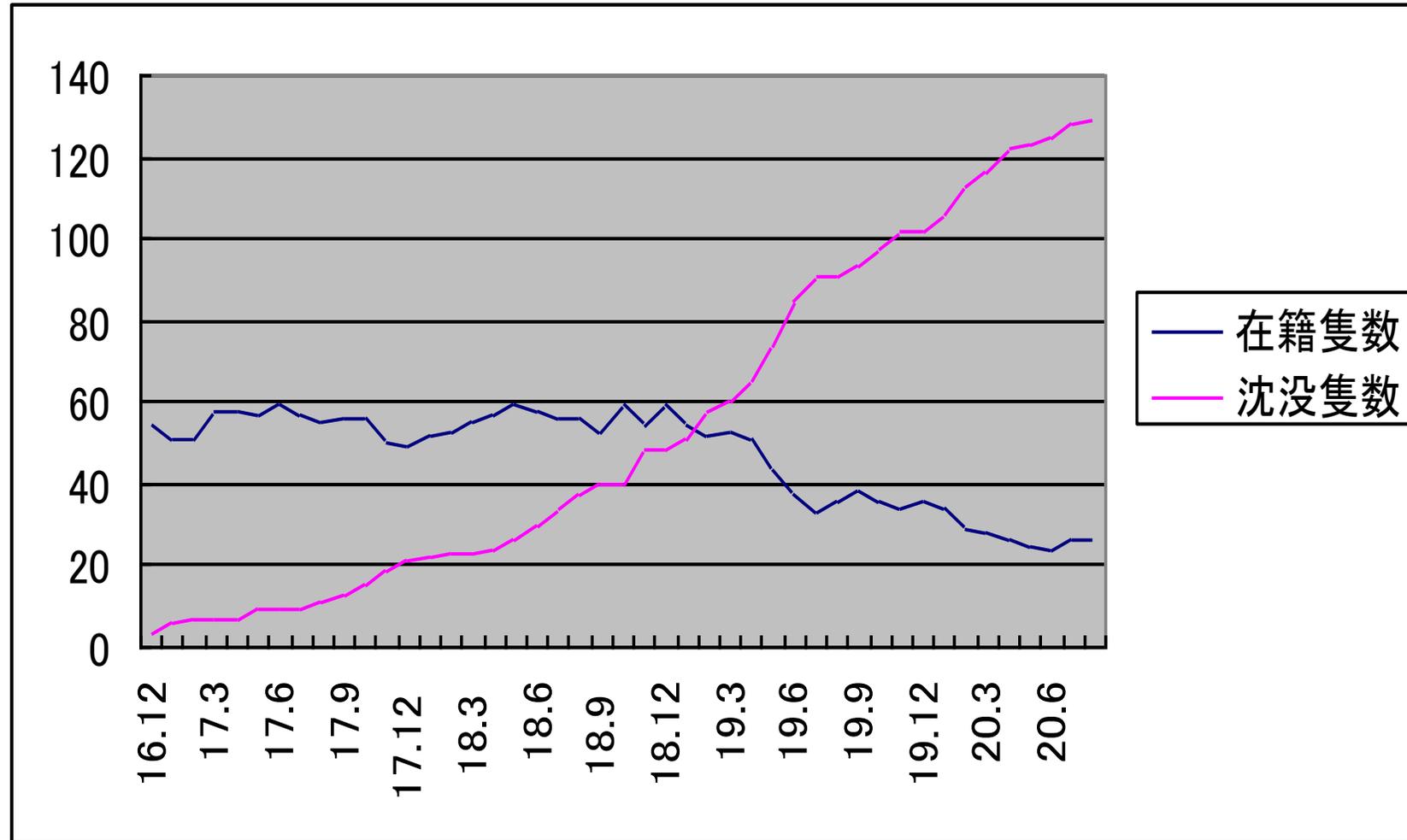
戦死者総数 10,817名(回天含まず)

兵学校60～70期配置別戦死率 飛行機 70.9% 水上艦 40.5% 潜水艦 78.1%

昭和19年1年間で 実に船舶603隻の損害 日本海軍は昭和19年4月以降 戦果9隻 沈没66隻

米潜水艦 保有潜水艦 317隻 52隻沈没





終戦後の処分 残存潜水艦58隻

- 伊14潜 伊400潜 伊401潜 伊201潜 伊203潜 伊369潜 米軍接收・米国回航 後に海没処分
- 伊36潜 伊47潜 伊53潜 伊58潜 伊156潜 伊157潜 伊158潜 伊159潜 伊162潜 伊366潜
伊367潜 伊402潜 呂50潜 波103潜 波105潜 波106潜 波107潜 波108潜 波109潜 波111潜
波201潜 波202潜 波203潜 波208潜 長崎五島沖に海没処分
- 伊202潜 波207潜 波210潜 向後岬沖に海没処分
- 伊153潜 伊154潜 伊155潜 呂59潜 呂62潜 呂63潜 波205潜 (呂57潜) 伊予灘で海没処分
- 呂59潜 波101潜 波102潜 波104潜 清水沖で海没処分
- 呂57潜 呉付近で海没処分
- 伊121潜 呂68潜 呂500潜 若狭湾で海没処分
- 伊503潜 伊504潜 紀伊水道で海没処分
- 伊501潜 伊502潜 シンガポールで海没処分
- 伊363潜 宮崎沖で触雷沈没
- 解体 4隻 波204潜 波209潜 伊505潜 伊506潜(スラバヤで解体)
- 呂67潜 佐世保で栈橋利用の後 解体

発見

発見





日本海軍潜水艦作戦が不振だった理由

1. 戦訓の活用がなされていない
2. 潜水艦の運用方法の不備
3. 潜水艦人事の問題
4. 潜水艦艦政の問題
5. 米海軍の対潜能力の向上



日本海軍潜水艦作戦が不振だった理由

1. 戦訓の活用がなされていない

昭和14年小演習で監視・追躡・触接 失敗

昭和15年特別大演習で交通破壊戦演習 大戦果

ハワイ作戦 オアフ島を包囲するも戦果なし

敵の警戒厳重な艦隊や港湾に対する緊密な監視や攻撃が極めて困難

敵の警戒のあまり厳重でない方面で交通破壊戦に使用すること



日本海軍潜水艦作戦が不振だった理由

2.潜水艦の運用方法の不備

敵艦艇襲撃、交通破壊戦以外に輸送作戦、偵察任務、航空偵察任務、陸上砲撃、特殊任務、母船任務など潜水艦を多用途に使用しすぎる。

交通破壊戦が徹底して行われていない。あるいは軽視。

出撃潜水艦 154隻
交通破壊戦従事潜水艦 59隻 38%
実施期間 203ヶ月 20%
7ヶ月以上実施潜水艦は7隻

輸送作戦への酷使 のべ99隻投入 332回輸送実施 19隻喪失

潜水艦殊勲甲査定標準

	撃沈	撃破
空母・戦艦	60	15
巡洋艦	30	8
駆逐艦・潜水艦	20	5
掃海艇・駆逐艇	10	3
魚雷艇	2	0
特務艦	10	2
輸送船	7	1

母潜（甲標的、回天）、補給、陸上砲撃、航空偵察、特殊任務（遣独任務）等に多用



日本海軍潜水艦作戦が不振だった理由

3.潜水艦人事の問題

潜水艦専門組織がない→潜水艦部の設立は昭和18年5月

航空本部は昭和2年

潜水艦参謀が不在	軍令部	潜水艦関係主務参謀
	連合艦隊	潜水艦関係主務参謀
	海軍省	潜水艦関係主務局員

司令不要論 指揮への影響 司令潜水艦19隻沈没

艦長の交代が頻繁	274名中	3ヶ月で交代	60人	21.9%	40隻沈没	31%
		半年で交代	120人	43.8%	80隻沈没	62%



日本海軍潜水艦作戦が不振だった理由

4.潜水艦艦政の問題

潜水艦の型式が多種に渡り過ぎる

独米の潜水艦の主力艦は単一大量生産 設計変更禁止

独 Uボート VII型C 659隻 建造
米 ガトー級 195隻 テンチ級 31隻

日本海軍 太平洋戦争中 120隻 15型式

静粛性と居住性軽視

ドイツ派遣の際「まるで太鼓を叩いているようだ」

乗員の居住性が劣悪 疲労困憊

型式	同型艦
甲型改1	1
甲型改2	2
乙型改1	6
乙型改2	3
丙型改	4
海大7型	10
中型	18
小型	18
潜補型	1
潜特型	3
丁型	12
丁型改	1
潜高型	3
潜輸小型	10
潜高小型	9



日本海軍潜水艦作戦が不振だった理由

5.米海軍の対潜能力の向上

日本海軍の対潜戦能力は大きく立ち遅れる

レーダー、ソナー、対潜兵器の遅れは致命的

レーダーで被探知後 撃沈された潜水艦48隻

水上艦のレーダーで探知→潜没→レーダー失探→ソナー探知
爆雷・ヘッジホッグ→沈没



	レーダー	ソナー	その他	不明	合計
昭和17年まで	1	5	10	3	19
昭和18年	8	4	6	8	26
昭和19年	24	15	12	5	56
昭和20年	15	1	8	2	26
合計	48	25	36	18	127



当時の潜水艦 食事の再現

藍鯨味醂(みりん)漬け

牛肉野菜の辛子和え

豆麺と若布(わかめ)の酢味噌和え

ハム鯨メシ

味噌汁

